

連載：技術経営の事例紹介

第1回 農業の再興による地域活性化

一儲かるには出口作りが重要 一

研究員（工学博士） 山中 隆敏

都心部への人口集中が進み、地域社会の疲弊が続く。併せて高齢化も進み、多くの地方自治体で財政問題を抱える事態となっている。元々日本人は、農耕民族で、地方の基幹産業は「農業」である。農業問題に焦点を当てて論じてみたい。

農作物の生産が、計画的に出来ない状況にある。理由は、農業人口の減少や、海外からの流入に押されて停滞し、農業の衰退が進んでいるからである。早急に対策を立てなければならない。農業の衰退を防ぐには、農作物を計画的・安定的に生産供給できる新しい農業・農法の仕組みを構築し、実践することが必要である。

新しい農法の開発

では、新しい農業・農法の仕組みを構築し、実践するとは何かを考えてみたい。近年、健康志向への注目が高まり、安全で体に良い栄養価のある高機能性野菜を求めるニーズがある。これまでの農業から、高品質の堆肥を活用し、微生物の活動を最大限に生かす農薬や化学肥料に依存しない農法に取り組むことだ。この農法の特徴は、自然の法則に基づいて天然資源をコントロールする微生物応用技術と土づくりに重点をおく。有機質の発酵肥料を使い、微生物によって分解したミネラル及び酵素など、天然資材を組み合わせる。この新しい農業を担い支え営む人材を育成することと、売れるモノ作りと、出口作りをきちんと構築することで、儲けることができる農業を実践する。

病気になりにくい体質を得る

この新しい農業・農法を取り入れることで、生産量が通常の一～三倍の収穫を安定的に生産し、儲かる農業を実践できている事例が全国各地にある。品質評価分析では、全国平均値と比較すると糖度、抗酸化力、ビタミンCに関して大変高い値が得られた。食味に関しては、甘みが非常に強く、苦味や酸味がなくフルーツのような芳醇な味わいで果肉が引き締まっており、食感が良いという評価分析結果が得られている。栄養のバランスがよく、人が食べたときに元気になり、病気になりにくい体質を得られる農作物を生産・供給するビジネスモデルの仕組みを構築し、儲かる農業を実践することである。

安心できる未来のある暮らし

他業種の法人や農業未経験者の参画で、農業人口が増え、地域社会と民が豊かになる。やがて、農業・食に関する課題解決の一助となり、それが地域の活性化に繋がる。安心して生活できる未来のある豊かな暮らしができる環境が整うことになる。

以上